

GA332

言語文化演習－英語，英語圏文化研究－

興石 哲哉

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、学生が英語・英語圏文化を中心に、その言語・文化事象をさまざまな形で受信し、自らの考えを学部学会等で発信していくことを目的とします。

【到達目標】

到達目標としては、1) 学生が授業を通じ、できるだけ多くの英語に触れ、英語の力をつける、2) 学生が学んだことを可能なかぎり発信していく、の二つです。具体的には、学生がまず英語を理解する力をつけ、文献が読めたり、ニュース等が聞けるようになったりしなければいけません。そのために、数多くの言語・文化事象を自ら受信する能力を高めることで、きちんと英語圏の言語・文化を理解していく態度を身につけていきます。その上で、それを学生が発信していきますが、可能なかぎり、英語で発信することを考えていきます。

【授業の進め方と方法】

基本的に英語・英語文化について、あるいはより一般的に、言語・文化についての材料を用意して、学生が読んだり見聞きしながら体験していくことから始めます。その後、ゼミ生同士で気づきを共有したり、さらに各自が自らの考えを発表したりすることで、より考察を深めていきます。

春学期では、主に英語の言語・文化事象を体験していくことに焦点を当てます。担当教員や学生が選んだ教材を読んだり、見聞きしたりしながら、きちんと理解できる能力を培います。担当者だけでなく、他のゼミ生も教材を徹底的に素材を調べてくることが要求されます。

秋学期では、教材を理解していくことを続けながら、グループワークに基づくプレゼンや各自の選んだテーマについてのプレゼンを混ぜていきます。自らの意見を発信し、全員で討論することによって、学生は視野を広げ、より深い理解に繋げることを目指します。

なお、以下の授業計画ですが、教材の数については変更する可能性がありますことをご確認ください。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学生との話し合い、ゼミについての概略を説明。学生・担当教員の自己紹介。春学期でどのような教材を用いるか確認。すぐ次回の教材(教材_1)を配布し、担当者を決める。
2	教材_1 (1回目)	教材_1について担当者が正確に理解しているか、チェック。
3	教材_1 (2回目：より詳細に検討, wrap-up)	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。併せて教材_2を配布。担当者を決める。
4	教材_2 (1回目)	教材_2について担当者が正確に理解しているか、チェック。併せて教材_3を配布。担当者を決める。
5	教材_2 (2回目：より詳細に検討, wrap-up)	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。

6	教材_3 (1回目)	教材_3について担当者が正確に理解しているか、チェック。併せて教材_4を配布。担当者を決める。
7	教材_3 (2回目：より詳細に検討, wrap-up)	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。
8	教材_4 (1回目)	教材_4について担当者が正確に理解しているか、チェック。併せて教材_5を配布。担当者を決める。
9	教材_4 (2回目：より詳細に検討, wrap-up)	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。
10	教材_5 (1回目)	教材_5について担当者が正確に理解しているか、チェック。併せて教材_6を配布。担当者を決める。
11	教材_5 (2回目：より詳細に検討, wrap-up)	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。
12	教材_6 (1回目)	教材_6について担当者が正確に理解しているか、チェック。
13	教材_6 (2回目：より詳細に検討, wrap-up)	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。
14	総括_1	これまでの教材の理解の仕方を総括する。資料の用い方等についても、再度検討し、今後の研究に役立てる。
15	総括_2	これまでの教材の理解の仕方を総括する。資料の用い方等についても、再度検討し、今後の研究に役立てる。さらに問題点などをプレゼンしてもらい、全員で討議。その後、秋学期へどう続けていくか総括において考えていく。

秋学期

回	テーマ	内容
16	イントロダクション	春学期を振り返り、改めて秋学期の授業開始に際し、スケジュール等を確認する。教材_7を配布し、担当者を決める。
17	教材_7 (1回目)	教材_7について担当者が正確に理解しているか、チェック。教材_8を配布し、担当者を決める。
18	教材_7 (2回目：より詳細に検討, wrap-up)	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。
19	教材_8 (1回目)	教材_8について担当者が正確に理解しているか、チェック。
20	教材_8 (2回目：より詳細に検討, wrap-up)	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。
21	学部学会に向けた取り組み_1	グループワーク等を行い、学部発表の内容を固めていく。
22	学部学会に向けた取り組み_2	グループワーク等を行い、学部発表の内容を固めていく。
23	学部学会に向けた取り組み_3	グループワーク等を行い、学部発表の内容を固めていく。
24	学部学会のリハーサル_1	学部学会の発表を念頭に置き、これまで研究してきたことを実際に発表してみる。プレゼンの仕方などについて学習する。
25	学部学会のリハーサル_2	学部学会の発表を念頭に置き、これまで研究してきたことを実際に発表してみる。プレゼンの仕方などについて学習する。

管理 ID: 1705239
授業コード: C1115

26	学部学会の最終リハーサル	学部学会を控え、最後のリハーサルを行う。実際の発表を見据え、あくまで当日のことを頭に描きながら、よりよい発表になるようベストを尽くす。
27	教材_9 (1回目)	教材_9について担当者が正確に理解しているか、チェック。
28	教材_9 (2回目：より詳細に検討、wrap-up)	前回の作業を続け、まとめに入る。教材を理解するための資料等について、適宜担当教員が説明。
29	総括_1	1年間のゼミの総括を行う。英語の教材をどう読んでいくか再度検討し直し、併せて秋学期に行った学部学会への取り組みを反省。
30	総括_2	1年間のゼミの総括を行う。英語の教材をどう読んでいくか再度検討し直し、併せて秋学期に行った学部学会への取り組みを反省。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材の扱っている事柄や学部学会のトピックについて、学生がきちんと先行研究を読むこと。また、固有名詞（人名、地名等）もおろそかにせず、きちんと下調べをしておくこと。最近ではネットを用いたりすればたいいの情報は入手できます。

【テキスト（教科書）】

特定のものはいりません。プリントの形で配布、あるいは授業支援システム等を通じて配布します。

【参考書】

随時、指定します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、学部学会への貢献等 (50%) を合計して成績を出します。なお、授業は出席することが当然なので、成績評価基準として「出席点」や「出席」という記載はしませんが、欠席が4回以上になりますと、参加度ゼロという扱いをするため平常点が極めて低くなり、単位取得が困難になります。

【学生の意見等からの気づき】

総じて好評のようです。学会発表などをやり遂げたことで、ゼミ生の自信につながっている様子が見て取れます。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンの時、パソコン、スクリーンをいります。また DVD 等も随時使用いたします。

【その他の重要事項】

1. 英語に興味がない方には不向きです。例えば、英語を読むのが億劫な学生には向きません。
2. スケジュールは実状に合わせて変更・修正を行います。
3. 遅刻・欠席は原則として一切認めません。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、3年生、4年生が SA 等を通じて自ら選んだコース（言語文化コース）での集大成の科目です。4年間を一つの山にたとえた場合その頂点の科目なので、その重要性をしっかりと認識してください。